

「いえしまフィールドワーク2」



今日のスケジュールを確認。



家島の子供に日頃どこで遊ぶかを聞いています。



家島内でのフィールドワークを終えて男鹿島に向かいます。



中村さんから差し入れのお寿司をいただきました。



男鹿島フィールドワーク。採石場のスケールの大きさに驚きを隠せません。



運よく採石の作業を見ることができました。

家島フィールドワーク2日目

朝9時にいえしま荘を出発（1）し、真浦を中心にメンバー全員で歩きました。住宅が密集する地域では、子供会の廃品回収、路地で遊ぶ子供たち、開店準備をする主婦らと出会いました。家島で出会う人たちは皆、私たちに気さくに声をかけ、さまざまな家島情報を提供してくれます。そんな家島の人たちの心意気こそが家島流の『もてなし』であると実感しました。（2）（3）

初めての男鹿島フィールドワーク

1日目参加できなかったメンバー2人を加え、男鹿島でのフィールドワークを行いました。（4）探られる島プロジェクトメンバー18名で男鹿島の産業の風景を探りました。通常男鹿島では土・日は、採石業は操業していないのですが、大阪での公共工事のため、9月以降は休日返上で操業していたので、活気ある採石の風景を見る事ができました。（5）（6）（7）

フィールドワーク中、採石を運ぶダンプの運転手に起こられるハプニングもありましたが、ガット船に採石を積み込む風景や、採石場を忙しく動き回るダンプやショベルカーなど、家島の作業を支えて来た活気ある、姿を垣間みる事が出来ました。

男鹿島のフィールドワークを終えて

3時間かけてのフィールドワークを終えて、探られる島プロジェクト実行委員会会長を務める中村さんが営む中村荘にて、男鹿島の産業風景を目の当たりにして感じた事を話し合いました。採石場の現場は土木業界の現場であるため、空間のスケール、仕事場のスケールなど、普段の町中のスケールをはるかに超えている事が参加者にとって印象深かったようです。非環境保護的な印象を与える採石場の風景に、地元の労働者の方は私たちに見られる事にナーバスになっているようで、ストレスを感じながら働いている姿が印象的でした。（8）（9）

男鹿島の砕石業の話

男鹿島で砕石業を営んでいる松島さんに、砕石業の現状について話をさせていただきました。お話を聞き、産業界の方が持たれる危機感を実感しました。また、ただ落ち込むのを待つだけでなく、埋め立て用の石以外に、別の石の使われ方を模索するなど、誇りと工夫をもって砕石業を存続させようという気概を感じました。「男鹿島の削られている風景を見て、なぜか方もいるだろうが、日本で災害時などに、一度に大量の復旧用砕石を供給できるのは家島しかない。その事を誇りに思っている。」というお話を聞き、男鹿島の風景を別の視点で見るヒントを頂きました。（10）（11）

一日の振り返り

おいしいお食事とお風呂で一段落ついた後、参加者全員で「探られる島プロジェクト2006」の方向性について話し合いました。プロジェクトの軸となる目的の確認と、島の魅力をどのように発信して行くのか、島の魅力を掲載したプロジェクトブックをどのようにまちづくりに活かして行くのかが議論されました。明日のスケジュールを確認し、この日の全スケジュールを終えた後も、参加者のみなさんは思い思いの事を話し合っていました。（12）



鉄の爪や削られた山が海の風景の大事な要素になっています。



中村荘で今日のフィールドワークを振り返っています。



中村さんの船で家島へ帰ります。



松島さんより砕石の話をしていただきました。



話をいただいた松島さんと家島の参加者との夕食。



プロジェクトの長期的な方向性と、作業内容の議論しました。